



のん の しゃ
音野舎だより



滴々会(てきてきかい)

施設長 山内 知枝

みなさまご機嫌よう。

日本国中、そして海外のメディアにも広く伝えられた時代の変遷があり、ここに令和の時を迎えました。音野舎でも利用者・職員のすべての心が一つになり、数多くある天皇即位の儀式に目を奪われてしまいました。

幸多かれと願う気持ちは同じだったことでしよう。番組を通して天皇陛下の御即位奉祝曲を、老若男女問わず人気のあるグループと、世界でも屈指の盲目のピアニストが披露して感銘を受けたことです。

このような世紀の祭典の折に歌詞の中に息づく滴々会と同じものを見出し更に法人名に気品と自信を持った瞬間をお知らせしたく新年の挨拶にしたいと思います。

お祝いの歌いだしは、『はじめは岩かげにしたり落ちた一しずくの水が：』で始まり、野や鳥や人たちをうるおし、大河にたどり着く様子を描いていました。

音野舎の法人名は『滴々会』(てきてきかい)です。まさに天の水が深山にしみいり長い歳月を経て岩間から滴り、せせらぎとなり、清流は川となつて、出会うものすべてを育みながら母となる大海へと流れていきます。この一滴はすべてのものに命の息吹を与えながら到達する姿をイメージしました。

私たち音野舎から湧き出す一人一人

の愛もこの滴のように大きな力を秘めたものであると信じることで心穏やかな日々を過ごせるのではないのでしょうか。また、このはぐくまれた愛は弱き人に、病める人に、心貧しい人に、老いたる人、個々の人生の終着点を迎えようとしている人に寄り添い、命あるすべてのものに注いでいきます。私たちは常に『明るく・素直に・あたたかい心』を信念に持ち、この滴となりうるべく滴々会と名付けました。

奉祝曲を聴きながら、二十二年前に考えたその時がまさまざと浮かび上がりました。ありがたいことに、たくさんの方々からお褒めの言葉と感謝の意をいただきますが、時折お叱りの言葉や、綺麗ごとだと怒りを投げかけてくる方々も否めません。丁寧に振り返りの時と受け止め精進していくつもりでございます。

今や、すべての業界における人手不足が表面化してきました。音野舎も論外ではありません。これからはますますご家族はもとより、音野舎に関わる皆様にご協力・ご支援をいただきながらさらなる発展と、職員への感謝の気持ちを記しご挨拶とさせていただきます。この号を通して今一度滴々会のいわれを知っていただき、ありがとうございます。

新しい年が、皆様とともに明るい希望のある日々となるように、祈念いたします。

特別養護老人ホーム 敬老会



九月二十一日、音野舎敬老会を開催しました。最高齢は、特別養護老人ホームに入居中の霜出イサ様で百二歳でした。敬老会では、はじめに三鐘流洋美様による祝儀舞を披露していただき、利用者皆様の長寿をお祝いしていただきました。

お祝いの演芸では、知覧武双太鼓や喜入・森のオカリナ教室、三鐘流洋美会の方々の太鼓や歌や踊りにあわせて、利用者の方々も一緒に歌ったり、手踊りをしたりされました。

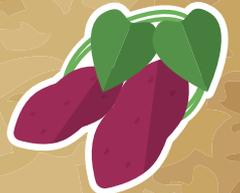
また、デイサービスやグループホームの劇や二人羽織に合わせて、大きな声で掛け声をかけたり、終始笑いの絶えない敬老会になりました。

敬老会終了後、昼食会を実施しました。久しぶりのご家族との食事に会話も弾み、食事もいつも以上に美味しく感じられました。

入居者やサービスを利用していただいている利用者の皆様、これからもどうぞお体を大事に穏やかな日々をお過ごしください。

芋掘り

初夏に植えたさつま芋が立派に育ち、十月に収穫しました。例年に比べるとやや少ない量でしたが、焼き芋に丁度良い大きさと甘みもあり美味しくいただきました。



デイサービス

運動会

十月の第二週目に運動会を開催しました。開会式では、紅白の代表者が選手宣誓を行い、「エイ、エイ、オー！」と威勢の良い掛け声と共にスタートしました。紅白リレーや缶積み、糸巻ゲームに玉入れ等、様々な競技に挑戦しました。缶積みでは、バランス良く自分の身長よりも高く積み上げ、満足そうな表情をされている方や、途中で崩れてしまい残念そうな表情をされる方がいらっしゃいました。

応援団長も元氣良く団旗を振って、大きな声で応援歌を歌い、一致団結していました。また、昼食時はノンアルコールビールで乾杯をし勝利を祝いました。



秋のドライブ



十月末から十一月の始めにかけて、川辺の大久保にあるひまわり畑にドライブへ出かけました。

辺り一面のひまわりに、「きれいなね」「こんな時期にひまわりが咲くの?」と感動した様子で見えました。持ち帰ることもでき、鎌を持ち畑の中に入ってひまわりの花を摘む方や、広いひまわり畑を職員と一緒に散歩をする方など各々楽しまれていました。

また、お土産に持ち帰ったひまわりをご家族も喜んでくださり、心に残るドライブとなりました。

スイーツ作り

今回「食欲の秋」ということで、専門学校でパティシエ科を卒業し、現在調理室で働いている職員と一緒に、秋の食材でもある栗を使ったモンブランを作りました。

作り方の説明を聞いて、いざ挑戦してみるとマロンクリームを絞る作業は意外と力があるようでしたが、皆様それぞれ試行錯誤し、楽しみながら上手に絞ることが出来ました。

お茶の時間に自分で作ったモンブランを食べ、「美味しいね」と話をしながら食べている方や美味しさのあまりペロッと食べ終わっている方々などとても好評でした。

また、モンブランを食べたことのない利用者の方がほとんどで、珍しいお菓子作りが出来て大変喜ばれていました。



グループホーム

十月秋晴れの下、喜入一倉町にあるグリーンファームヘドライブに出かけました。施設内にある「だいたい」食堂で多くのメニューの中から自分が一番食べたい料理を選び、昼食をとりました。また、食堂からは海と大隅半島が一望でき、いつもより一段と美味しく食事を頂き満腹になりました。その後は外へ出て散歩をし、顔はめパネルにも挑戦したり、記念撮影なども行いました。帰りの車内では物産館で購入した果物やお菓子を手に取り会話も弾み、ドライブへ一緒に行った実習生と楽しい思い出が出来ました。



遠足

十月十四日、初めて二ユニット対抗戦で運動会を行いました。紅白に分かれて各自ハチマキを付け、気合いの入った本格的な装いです。競技は七種目あり、各チームそれぞれ数名ずつ参加しました。風船を使った競技では、なかなかうまく引つ張ることができず手伝いももらったり、バトンリレーではバトンを手から離せずお互いに握ったままだったりと、ゴールまで遠く色々なハプニングがあり笑いの連続でした。優勝は紅組(GHII)でそれぞれに賞状とメダルの授与があり、嬉しさのあまり涙ぐむ利用者の方もいらっしやいました。室内での運動会でしたが怪我もなく皆で元気に運動できたことが最高の喜びとなりました。



運動会

<実習を通して感じたこと>



保志碧泉さん

今回の実習でグループホームの特徴や認知症の方への声のかけ方などについて学ぶことができました。利用者の方とたくさん関わり楽しく実習を行うことができ、今後の実習でも学んだことを活かしていきたいです。

初めてのグループホームでの実習でとても緊張していましたが、職員の方も優しく、とてもためになる楽しい実習が出来ました。この実習で学んだことを3年生の実習で活かしていきたいと思います。



曾我龍斗さん

鳳凰高校福祉科二年生の二名がグループホームで実習を行いました。利用者が生活していく中でどのようなサポートが必要なのか、認知症の人に対してどのように声掛けをしたらよいのか、レクリエーションや体操、時にはドライブに同行し学んでいただきました。

実習生

小規模多機能ホーム

知覧幼稚園慰問

十月四日、知覧幼稚園の皆さんが小規模多機能ホームに来てくださいました。園児一人一人の自己紹介から始まり、先生が演奏するピアノに合わせて、園児の皆さんが大きな声で元気よく歌を歌ったり、踊りを踊ったりする姿に利用者の方々も優しく柔らかい表情になっていました。また、ふれあいの時間では利用者の方と園児とでじゃんけん大会を行い、勝った方は喜び、負けた方は相手に拍手をし、とても和やかな時間でした。

最後には来年間催される東京オリンピックのキャラクター「ミライトワ」と「ソメイティ」の貼り絵作りを行い、園児の皆さんがパズルのピースのような折り紙を貼り付けて、上手に完成させることが出来ました。短い時間ではありましたが園児の皆さんとふれあい、交流を持つことで普段とは違った明るい表情になり、たくさんの方の元気をもらいとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



地域活動



九月の最終日にボランティアの方が三名来られました。「初めてなんだけど大丈夫かな」「どんなことをしたらいいのだろうか」などの声が聞かれましたが、健康体操をしたり貼り絵作りを一緒に行いました。作業をして行く中で利用者の方と住んでいる地域が一緒だったりと、共通の話題があったりして会話が弾み賑やかな時間が過ぎました。十一月八日にはみりの会の方々から演奏を披露して頂きました。今回は介護職員が運動機能について講話を行いました。みりの会の方々と一緒に体操をしました。

運動会

十一月五日、グループホームと合同で、秋の大運動会を開催しました。屋外で開催でしたが、万国旗が風になびく穏やかな秋晴れの中で実施することが出来ました。

多機能ホームは紅組、グループホームは白組に分かれ、輪投げ、糸巻ゲーム、ボールリレー、パン食い競争などの競技で競い、選手はもちろん見ている方も「がんばれー」「もちっとやっど」と一生懸命応援をしていました。職員は指定されている洋服を着て、仮装した人が近くに來ると嬉しそうに握手を求めたりと会場を沸かせてくれました。今回は僅差で紅組の優勝でしたが、皆さんそれぞれ楽しんで参加されていました。令和最初の大会も大成功に終わり、怪我もなく素晴らしい思い出を作ることが出来ました。





音野舎講演会



第二十回音野舎講演会を十一月二日に開催しました。きいれ浜田クリニック院長、濱田努先生をお招きし、「自分らしく生きるために」医師からのアドバイス」という演題で講演をして頂きました。

私たちの「いのち」には限りがあります。もし、あなたが病気や事故で判断能力の回復が見込めない状態になった場合、どのような治療を望まれますか。老衰の状態になったらどのような最期を迎えたいですか。縁起でもないことを聞かれて驚いた方もおられたと思いますが、最期まで自分らしく生きる為には、とても大切なことです。いざという時に、自分自身や家族が何を望んでいるのか分からないまま、いのち(じかん)がただ過ぎていってしまいます。自分の思いを伝えられるうちから、家族と人生会議を重ねていき、最期まで自分らしく生きていきたいと思えました。

濱田努先生、素晴らしい講演をありがとうございました。

《ご参加いただいた皆様の声》

- 大切な人と人生会議をしようと思うきっかけになりました。
- 自分らしく生きるという事は、自分らしい最期を迎えるという事だと思った。
- 先の事は分からないけど、今日の話聞いて子供達と話し合い、自分らしく生きることを考えます。



防犯訓練・避難訓練

近年、学校や福祉施設等において不審者の侵入等が発生しており、特に平成二十八年七月に相模原市の障害者施設で起きた事件は記憶に新しいと思います。

音野舎では不審者に対する防犯訓練を九月二十五日に実施しました。訓練では南九州警察署より二名の方が来園され、不審者と、対応する側に分かれて「さすまた」を使った実演を通して対処方法の指導を受けました。講話では、少しでも危険を感じたらまず警察に通報することが大切で、通報から五分から十分程度で警察署員が駆けつけるため不審者の身柄の拘束は警察に任せ、警察署員が来るまでの間を利用者の安全を守る事と職員自身の安全確保を優先すること等の指導がありました。

また、十一月二十一日は昼間を想定した避難訓練を実施しました。今回はグループホームIIの調理場からの出火という想定で、南九州消防署署員の方の見守る中で、利用者三十六名と職員約二十名が参加し、訓練と指導を受けました。

今回の二つの訓練で学んだことを活かせるように自分達でも訓練を重ねていきたいと思えます。



編集後記

新しい元号「令和」の時代を迎え、去年はどのような年でしたか。今年も十二支も一巡して「子年」となりました。「子年」は「増える」という意味合いもあるようです。

今年1年がますます発展し良い年となりますように、気持ちも新たにスタートしたいものです。

発行

社会福祉法人 滴々会
 高齢者総合福祉施設 音野舎(のんのしゃ)
 〒897-0302
 鹿児島県南九州市知覧町郡 2072 番地 2
 TEL 0993(58)7171 FAX 0993(83)4771
 URL <http://www.nonnosya.com/>
 E-mail info@nonnosya.com

「音野舎だより」はホームページでもご覧いただけます！！